

夏草に戻れる都市

日本における歴史的な集落の遺跡の殆どにおいて、建物の形跡を残しているのは掘立柱建物の柱穴や柱根と、礎石式建物の土の基壇と礎石ぐらいです。自然分解可能な木材を主要な材料とし、材の再利用と再構築を可能としていた日本の伝統的建築は、基礎の軽さのおかげで土地の自由な再利用と、農耕地への再帰を可能としました。無防備な資源・エネルギー消費の結果、大変な環境問題の解決に直面し、持続性のある生活文化と建築を再検討せざるを得ない人類にとって、このような「夏草に戻れる都市」の概念は、鉄筋コンクリートや鉄骨の現代建築より遥かにサステナブルに見えます。本講演は日本の伝統的建築をサステナビリティという観点から再検討します。

開催日 11月3日(金・祝) 13:00 ~ 14:30

受付 開講時間の30分前から

会場 リソル生命の森 日本メディカルトレーニングセンター

受講料 リソル生命の森各種会員様 **無料**
★今回は一般の方も特別に**無料**です

定員 30名 ※定員になり次第締切とさせていただきます。
早めにお申込みください。

お申込 下記へお電話にてお申込みください。

夏草
II
水田や原っぱ

タイトルは、松尾芭蕉が
奥州平泉を見て詠んだ
「夏草や 兵どもが 夢の跡」
より引用しています

千葉大学工学研究院 教授 **MORRIS. Martin Norman** (モリス マーティン ノーマン)



1956年 イギリス、ケンブリッジ生まれ
1979年 ケンブリッジ大学建築学科卒
1982年 ケンブリッジ大学建築ディプロマコース終了
1983年 来日。東京大学研究生(文部省より奨学金)
1984年~1986年 東京大学 修士課程(建築史)
1986年~1995年 東京大学 博士課程(建築史)
1996年 千葉大学 工学部 講師(建築史)
2000年 千葉大学 自然科学研究科 助教授(建築史)
2007年 千葉大学 工学研究科 教授(建築史) 現在に至る